

起因物（小）別コードno.341 炉、窯労働災害発生状況

業種別炉、窯労働災害発生状況（1999-2021年）

業種	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	合計
010101 肉製 品、乳 製品製 造業			1	2		1	4	3	1		3		2	2	2	1	1	3	2	2	1	2		33
010102 水産食 料品製 造業			2	2		7	1	4	1		3	1	6	4	1	2		3	2	4	4	4		51
010103 農業保 存食料 品製造 業			2			3			1	2	4	3	3	1		2	2			2		1		26
010104 パン、 菓子製 造業			3	3		2	3	3	4	1	2	2	3		5	3	1	4	3	3	3	3	4	52
010105 酒類製 造業			1	3				1		1							1	1		2	1	2		13
010106 飲料 （酒類 を除 く）製 造業									1	1	1												2	5
010109 その他 の食料 品製造 業			23	23		15	14	19	18	26	34	9	11	39	21	17	19	23	18	36	25	23		413
0101 食料品 製造業			32	33		28	22	31	26	31	46	15	25	46	29	25	24	34	25	49	34	38		593







プラスチック製品製造業			1					2	1			1		1						1			9	
010806 ゴム製品製造業			1							1		1		1	4								8	
010807 皮革・同製品製造業			1																				1	
010808 塗料製造業																								
010809 化学肥料製造業									1	2			1								1		5	
010899 その他の化学工業			4							1		1	1		1	1	2		1	1	1	1	15	
0108 化学工業			10		2		5	1	3	7	3	4	4	1	4	6	3	3	2	4	4	4	2	72
010901 セメント・同製品製造業			1											1	1		1				1		5	
010902 ガラス・同製品製造業			2		3		3	1	1	1	1	2	1	1	1	6	1	1	1	1	1		27	
010903 陶磁器・同			2				1					1	2		1								7	



011109 その他 の非鉄 金属製 造業			3		5			2	4	8	6	2	6	3	4	2	3	1	4	2	2	4	2	8	71
0111 非鉄金 属製造 業			21		19			17	17	27	23	15	20	11	13	13	12	12	6	14	12	9	9	16	286
011201 洋食 器・刃 物製造 業					1																		1		2
011202 ねじ等 製造業			1																1			1			3
011203 金属プ レス製 品製造 業			1								1		1	1						1	1				6
011204 めっき 業			2		1		4		3		4	4		3	2	3	3	1	2			1	4	2	39
011209 その他 の金属 製品製 造業			10		12		3	2	3	9	4	7	5	3	4	6	4	4	9	5	4	2	5		101
0112 金属製 品製造 業			14		14		7	2	6	9	9	11	6	7	6	9	7	6	12	6	6	7	7		151
011301 機械 (精密 機械を 除く)			5		10		4	1	5	2	1	5	2	2	1	7	5	1	2	3		3	4		63































170101 派遣業								2															2
1701 派遣業								2															2
170201 警備業																							
170202 情報処 理サー ビス業																							
170209 その他		3		1		3	4	1	1	3		3	3		1	2			3	1	4	1	34
1702 その他 の事業		3		1		3	4	1	1	3		3	3		1	2			3	1	4	1	34
17 その 他の事 業		3		1		3	4	3	1	3		3	3		1	2			3	1	4	1	36
0 全産 業		205		203		181	182	174	185	173	194	144	151	174	146	145	119	169	170	215	172	179	3,281

業種別火、窯死亡災害発生状況（1999-2021年）

業種	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	合計	
010101 肉製品、 乳製品製 造業																									
010102 水産食料 品製造業						1																			1
010103 農業保存 食料品製 造業																									
010104 パン、菓 子製造業																			1						1









































2013	1	8 ～ 9	操業準備中の電気炉において、回転させていた電炉蓋中央部に設置してある黒鉛電極（φ714×2, 700、3本継ぎ）が把持部で折れ、倒壊した。倒壊した黒鉛電極（長さ約5m）は電気炉作業床面より滑落し、下部の作業通路を歩行していた作業者に激突し、床面との間で作業者を挟んで停止した。尚、災害発生直前、黒鉛電極周辺では操作、作業は行われていなかった。	11001	5	100 ～ 299
2014	4	18 ～ 19	電気炉にて、溶湯に酸素を注入していたところ、炉内爆発が起これ、炉側面の除滓口等から湯玉、スラグが飛散し、付近にいた被災者5名が熱傷を負い、死亡した。	11301	14	300 ～
2014	2	7 ～ 8	アルミニウムと不純物を焼成分別するロータリーキルンの点検後、被災者は、ベアリングにグリスアップする作業を開始した。同僚が異音に気付いて見に行ったところ、左腕をキルンとキルンを回転させるためのローラーとの間に挟まれ、頭部から左肩にかけてキルンに押し付けられた状態の被災者を発見した。	11209	7	1～ 9
2015	1	10 ～ 11	海水を沸騰させた平釜（水深30cm）をたもでかき混ぜる作業中、大量の湯気で視界を失い、釜の縁で躓き、釜に転落し、頭部を除く全身火傷を負った。療養していたが、平成27年4月27日、重度熱傷による多臓器不全で死亡した。	10801	2	1～ 9
2016	10	16 ～ 17	被災者は担当する熱処理炉を巡視中、稼働中の2号炉が突然爆発し、熱風を浴び、首から上がⅡ度、首から下がⅢ度の火傷を負った。	10904	14	100 ～ 299
2016	3	9 ～ 10	産業廃棄物焼却炉において、炉のダスト排出口が詰まったため、固着したダストを金属製の掻き出し棒等で破碎・粉砕していたところ、炉内に堆積していたダストが一気に排出口から噴出し、作業中であつた労働者3名が噴出した高温ダストを被って全身火傷等を負った。	150102	5	100 ～ 299
2016	3	9 ～ 10	産業廃棄物焼却炉において、炉のダスト排出口が詰まったため、固着したダストを金属製の掻き出し棒等で破碎・粉砕していたところ、炉内に堆積していたダストが一気に排出口から噴出し、作業中であつた労働者3名が噴出した高温ダストを被って全身火傷等を負った。	150102	5	100 ～ 299
2016	2	5 ～ 6	溶鋼の攪拌、脱ガス、成分調整等を行う真空処理槽のメンテナンス作業において、作業員2名で溶鋼を真空処理槽内部に吸い上げるS側浸漬管の取り外し作業を行うため、下部槽フランジと浸漬管フランジとを接続するボルトを取り外した際、浸漬管が落下し、下部槽フランジと浸漬管フランジとの間（約25cm）から真空処理槽内部に残留していた熔融高熱物が被災者側に流出し、全身を熱傷した。	11001	11	100 ～ 299
2016	1	17 ～ 18	製品（砂糖）を乾燥、冷却するためのドライヤークーラー（長さ13.1メートル×直径3.45メートル／横向きのドラム型）内部の回転羽根洗浄作業中、側部点検口（横119センチメートル×縦40.3センチメートル）からホースで温水（温度65度）をかけ、こびりついた砂糖を洗い流していたところ、回転羽根に巻き込まれた。	10109	7	50 ～ 99
2017	4	8 ～ 9	鑄造工場において、鑄物用の溶銑をつくるために溶解炉を稼働させたところ、溶銑が予定通りに炉から流れず炉の羽口を損傷させたため、稼働を停止した。その後、炉の底蓋を開けて炉内の溶銑を下部に放出させたところ、冷却水が炉の底部に流れ落ちていたことから、溶銑と接触し水蒸気爆発が発生し付近にいた被災者が全身熱傷を負った。	11002	14	10 ～ 29
2017	3	8 ～ 9	ガスオープン操作者が、焼き菓子製造に使うガスオープンを温めるためにスイッチを入れたが点火せず、ガス臭かったので換気をし、再度ガスオープンのスイッチを入れたところ、当該ガスオープンが爆発し、当該ガスオープンの正面にいた労働者が爆発に巻き込まれて死亡した。	10104	14	1～ 9
2017	1	8 ～ 9	鋼製の住宅用建材の垂鉛めっき加工工場内において、被災者が建材の仕上げフラックス作業に従事していた。鉄製の治具を鉄製の建材（重さ3kg）に引っ掛けて、約90度の塩化アンモニウム水溶液が入った仕上げフラックス槽（高さ73.5cm、深さ60cm）に約1秒間漬ける作業中に、被災者が仕上げフラックス槽に頭部から転落して熱傷を負い、死亡した。	11204	11	30 ～ 49

2019	9	10 ～ 12	工場内の鉄製スクラップを融かすための高周波電気炉が設置されている炉体室で倒れている被災者を、プラットフォーム上で作業していた作業員が発見し、救出後、すぐに救急搬送したものの、死亡が確認された。なぜ被災者がその場所にいたのかを把握していた者はおらず、被災者の当日の作業内容を知っていた者もいなかったため、災害発生時の被災者の作業内容は不明である。	11002	13	10 ～ 29
2020	3	14 ～ 16	被災者は客先で作業通路にある油圧ポンプの修繕作業に際し、溶解炉室における溶解炉底部の油圧シリンダー付近で何らかの作業を行っていた。このとき別の労働者が被災者の存在に気付かず湯出しのため炉窯を傾動したため、被災者は炉窯に追従して回転した防護金網のフレームと溶解炉支持用のフレームとの間に頸部を強く圧迫され死亡した。被災者に油圧シリンダー付近での作業指示はなく、被災者がその場にいた理由は不明である。	11401	7	300 ～
2020	1	0 ～ 2	被災者2名は、店舗内で死亡した状態で発見されたもの。発見当時、店舗内は閉め切られており、店舗内に設置された換気設備2台がいずれも稼働していない状態で、木炭を燃料とするタンドリイ窯を使用していた。死因は一酸化炭素中毒と考えられる。	140201	12	1～ 9
2020	1	0 ～ 2	被災者2名は、店舗内で死亡した状態で発見されたもの。発見当時、店舗内は閉め切られており、店舗内に設置された換気設備2台がいずれも稼働していない状態で、木炭を燃料とするタンドリイ窯を使用していた。死因は一酸化炭素中毒と考えられる。	140201	12	1～ 9

出典：[https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen\\_pg/SIB\\_FND.aspx](https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pg/SIB_FND.aspx)(職場のあんぜんサイト)

Return to [https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206\\_02.html](https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206_02.html)